

# 平成30年度 図書委員会活動報告

## 図書館便りの発行

月一回の発行を目指し、各学年の当番制で作成しました。生徒の皆さんに、図書への興味関心を持ってもらうため、定番記事の「新任の先生方へのインタビュー」に加え、担当が工夫を凝らした紙面にして発行しました。不定期の発行になってしまった時期もありましたが、城南祭の特別号の作成もあり、充実した活動にできたと思います。



## 移動図書館

城南高校では各学年の階に移動図書館が設けられています。例年、秋田県立図書館からセット図書をお借りして、年三回テーマを設定して入れ替えをしています。今年度は学校で購入した新着図書の一部も一緒に設置してみました。移動図書館は、普段なかなか図書館に足を運ぶ機会がない人も気軽に図書に触れられるように、という目的で設置されているので、さらに利用が増えると思います。しかし、いづれは図書館の利用を伸ばすことにつなげたいので、今後も皆さんの興味関心を広げる仕掛けをしていきたいと思います。

## 横手市学校図書館 合同研修会

私は書店に行くとき、ポップを目を引かれてそのまま購入することがよくありますが、図書館のポップを参考にしたいです。先生のお話を聞くだけでなく、実際にポップを作る体験をしてきました。最初は慣れない作業で苦戦しましたが、講師の先生の丁寧なアドバイスのお陰でとても楽しく作る事ができました。ポップは見る人によって、色の対比を工夫して見やすくなり、伝わりやすくなり、キャッチコピーを考えたことも大きいです。家で、簡単に作れるものなので、自宅の本棚の飾りとしても最適だと思います。いづれこの経験を学校の図書館で活用し、図書館の利用者増に貢献したいと思っております。

## 城南祭展示 (へしおりコンテスト)

城南祭恒例の企画となった「へしおりコンテスト」を今年も実施しました。皆さんから出品してもらったしおりは、年々クオリティが高くなっており、今年も感動します。コンテストではありますが、甲乙つけがたい作品ばかりでした。人気投票では、二年生の鈴木野々花さんの作品が今年の最多獲得となり、賞品として図書カードが贈呈されました。しおりコンテストは城南祭の人気の企画となり、工夫改善を加えて来年につなげたいと思っております。



## (へしおりコンテスト)

読み聞かせは初めての体験だった上、城南祭での活動という事で緊張しました。そこで、私は間の取り方や声量に気をつけながら読みました。間の取り方は早くても遅くても子供が飽きてしまう可能性があるので、難しいと感じました。声量は程よい大きさを保つことができたと思います。また、私は読むこととページをめくることを双子の妹と交互にやってみたり、そこ、それを見て喜んでくれた子供たちがいました。これは私たちが今年からこぞできることなので、来年も今年以上の工夫をして読み聞かせに挑戦したいと思います。



# おススメの新刊本

「シユレター」の階段  
小島 達矢 著

私がこの本を選んだ理由は本のタイトルに強く興味を惹かれたからです。シユレターという単語は、錯覚を引き起こす絵、いわゆるだまし絵のことです。本編のストーリーでもこのだまし絵のような思いがけない展開が読者を待ち構えています。この本の見所は、異なる二つの話で物語が構成されていることです。一つは突然誘拐された先で命を懸ける脱出ゲームをするようになった大学生、夏奈美の話。もう一つは、ひよんなことから姉の部屋へ忍び込むことになってしまったいじめられっ子の中学生、そらいちの話です。

この二つの話が交互に繰り返されて物語は進み、次第につながついていきます。

脱出の場面ではハラハラとした臨場感を感じることが出来ます。そらいちの心がどのようになり成長していくかも必見です。是非たくさんの人にこの本を手にとってほしいと思います。

「神様の御用人」  
浅葉 なつ 著

私は「神様の御用人」シリーズをおすすめします。フリーターである主人公が、ひよんなことから「御用人(代理)」に任命され、狐の姿をした方位神と共に様々な悩みを持つ神様の御用を聞きに東奔西走する話です。

「過ぎ去りし王国の城」  
宮部 みゆき 著

この本のストーリーをざっくりと紹介するならば、中学三年生の男子「真」が絵の中の世界に入ることができるといふ話です。この物語には、皆さんが知っている神や知らない神、古事記に書かれていない神がたくさん登場します。神社に興味がある人、正月などに参拝する人にも楽しめる本なので是非読んでみてください。

## 編集後記

平成30年四月、高校生の不読率(一ヶ月に一冊も本を読まなかった人の割合)が「依然として高い状況にある」と文部科学省から発表されました。読書とは本との出会いですが、現代の高校生には出会いの場面が少ないのでしょうか。第二面では、作家の村上春樹の特集し、「ハルキスト」と呼ばれる人たちは知りました。第三面の特集では、「電子書籍と紙の書籍」について取り上げ、皆さんの好みについて興味深い結果が得られました。読書への入り口は一人の作者に傾倒するもよし、媒体を選ばずともよし、城南高校の図書を手にとってみてください。きっと素敵な読書の世界に出会えるはずですよ。

# 翔



## 情報から知識へ

校長 木浪 恒二



はばたけ  
発行者  
秋田県横手市根岸町2-14  
秋田県立横手城南高等学校  
図書委員会  
印刷 (株)アイ・クリエイト

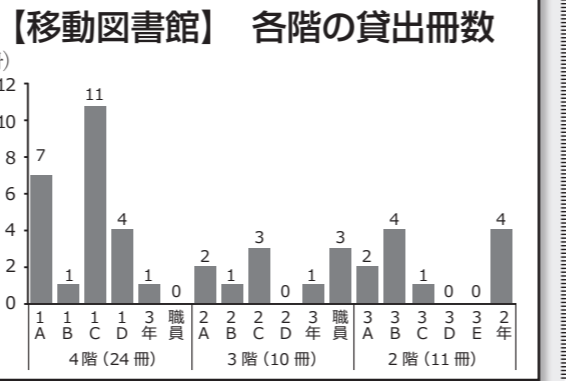
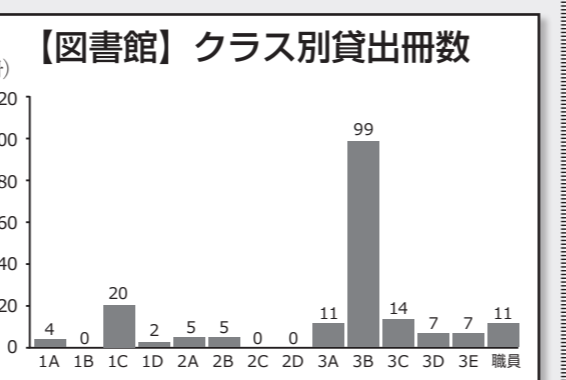
皆さんは一ヶ月に何冊くらいの本を読みますか。文化庁の調査(二〇一三年)によると日本人の47.5%の人が「一冊も読まない」と答え、また別の調査では高校生の53.2%が1冊も読んでいないと答えています。これに対して昨年五月に本校で行った「一ヶ月の漫画以外の読書冊数」という調査では、全体の64%の生徒が「読んでいない」と回答し、全国を上回る残念な数字となっています。私もそれほど読書をする方ではありませんが、決して嫌いではありませんが、私の読書は、話を気になった本や、興味を持った本で読んだ時に読む程度のものでした。もしかすると「読書の楽しさ」を実感できていなかったのかもかもしれません。

数年前、秋田市の書店で「読んだら忘れないうちに読書術」(樺沢紫苑著)という本が目にとまりました。皆さんは、読んだ本の内容を忘れてしまふことはありませんか。私は、このように経験から、気になる部分に付箋を貼ったり、マーカーで線を引いたりしていますが、それでも忘れてしまふことが多々あります。少しでも多くの情報を、知

識として記憶に留めておきたいと思っていた私にとって、とてもありがたかったです。本の中に出てくるのは、「私が考える『本を読んだ』の定義は、『内容を説明できること』、そして、『内容について議論できること』です。感想や自分の意見を述べられなければ、本を読んでいる意味が無いのです」と述べています。さらに、「読書によって『頭』にインプットした知識を様々な形で『アウトプット』することによって内容が記憶の中に定着する。」とも言っています。それまで私は、読書はしても内容や感想を人に話すことはほとんどなく、単に自分の記憶に留めておくだけでした。この本を読んだ時、忘れてしまふ理由が見えてきたような気がしました。以後は、読んだ本の内容を周知の人に伝えることを心掛けるようにしています。(実は今もそんな気持ちでこの文章を書いています)また、「本を読まない。文章も書かない。それは不可能です。」とも書かれています。私が書いてこの文章は、本から得た知識を頭に定着させながら、自

## 貸出の現状

分の文章力をも鍛えることになってきているのです。そう考えると、ますます読書が楽しく感じられてきます。今は、インターネットの時代。ありとあらゆる情報がネット上に溢れています。わからないことがあればネットで検索すればすぐに答えは見つけられます。しかし、それは単なる「情報」でしかありません。一冊の本から得られる体感した情報は、工夫次第で自分の「知識」として人生のエネルギーに変えることができます。学校図書館に行くことができます。ありとあらゆるジャンルのエネルギーの卵が皆さんを待っています。今年度の学校図書館の貸出冊数(二〇三〇冊)という数字はあまりにもつけない気がしてなりません。皆さん、学校図書館を活用しましょう。



今年度の城南高校図書館の貸出総数は、二〇三〇冊(一月二十一日現在)でした。昨年度よりも二五冊貸出数が増加しましたが、例年同様、クラス別の数には大きな偏りが見られませんでした。今年度は特に三年B組の貸出数が突出しています。進路に対応した絵本等を見たり、受験勉強の合間に本に触れたりしたことが増加に繋がったようでした。また、家族の間で本の話題が出て、学校の図書館からその本を借りていき家族で読んだという生徒もいました。しかし、生徒数が減少していることや、電子書籍の普及などが影響してか、全体的に減少傾向が見られました。学校図書館以外の利用で、読書に親しんでくれているのかもしれない。しかし、身近にある、せつかくの図書館

の活用が一部の生徒に限定されていることが、少々寂しくも感じます。勉強の息抜きも兼ねつつ、高校時代に培われるべき、豊かな知識・感性・心を、多くの書物から得て欲しいものです。

各階に設置されている移動図書館では、学校にある図書以外に秋田県立図書館所蔵の図書の貸出も行っています。本をまず「手に取ってみる」ことから、読書への一歩を踏み出してみませんか。

さて、今年度一番多く本を借りた二人の生徒に、読書について話を聞きました。

〇三年B組 橋本奈奈さん(60冊)  
読書は、自分の知らない世界を知ることだと思っています。本の中で描かれている世界はもちろん、著者という自分とは違う考えを持った人の世界を知る、それが本を読むことだと思っています。私は今年、様々な年代、ジャンルの本を読みました。その中で一番心に残っている本は、辻村深月さんの「かがみの狐城」です。少し長いなと思う本や、自分が普段読まないと思う本を、自分が普段読んでいる本の中からは、自分にとって「良い」本が隠れていることが少なくありません。普段本を読む人も読まない人も、時々チャレンジした本を読むと、自分の世界が広がると感じます。読書を通じて、自分の知らない世界に触れてみてはいかがでしょうか。

〇一年C組 高橋文子さん(25冊)  
私は中学校の頃まで全く本を読むようなタイプではありませんでした。が、城南高校の図書館の本の充実さに驚き、気がついた時には、毎日のように図書館に足を運ぶようになっていました。まだまだ読書歴は浅いのですが、最近読んだ本では、「夜が明けたら、いちばんに君に会いに行くと」という本が温かいストーリーで一番のお気に入りです。読書は、いざ始めてみるに苦にはなりません。皆さんも、身近な話題作などから読書を始められてはいかがでしょうか。

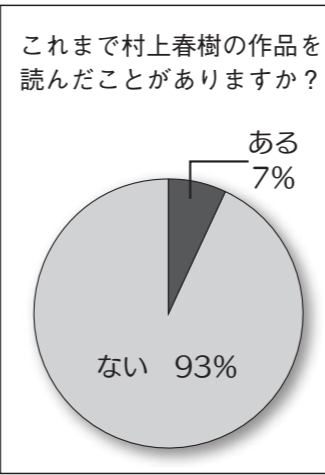
# 特集 ノーベル賞に最も近い作家 村上春樹

## ●前代未聞の不祥事に揺れる 文学の最高権威

二〇一八年五月ノーベル文学賞を選考するスウェーデン・アカデミーは、今年受賞者発表を見送ると発表しました。関係者の不祥事による決定ですが、これは実に七〇年ぶりの事態であり、毎年受賞者候補に名を連ねる唯一の日本人、村上春樹のファン（ハルキスト）としては何とも残念な春樹の特集をして「せめて図書館報で村上春樹の強い希望から特集を組んでみました」。

## ●村上春樹アンケート

まず始めに、3年A組・B組にアンケートを実施した結果……



約7%の生徒が「読んだことがある」と回答しました。村上春樹について、「年齢を重ねても恋愛の感覚が鈍ることなくリアルに表現できている作家」という印象をもつ生徒もいたようです。村上春樹のイメージについては、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは分からない」という回答が多く、生徒の皆さんが調べ学習をした結果、「有名な作品を多数輩出しているにもかかわらず、ノーベル賞を取り逃がすのはなぜか？」という疑問が生まれました。

## ●なぜ村上春樹はノーベル賞を逃すのか？

ノーベル文学賞創設のアルフフレッド・ノールは受賞の理念を「理想主義的傾向のものとも注目すべき文学に贈る」と遺言しています。「理想主義的傾向」とは人間、国家、歴史などに対する洞察力や想像力、精神性の深さを意味します。つまり、歴史と正面から向き合う啓蒙性や社会性のある作品であるといえるでしょう。そこで問題は、村上春樹の作品がそれをマッチするかどうかということです。これを考察するにあたり、2017年にノーベル文学賞を受賞したカズオイシグロの傑作『日の名残り』と、村上春樹のこれまた傑作『ノルウェーの森』を比較してみましよう。両作品の共通点は恋愛小説であるという点です。



カズオイシグロ『日の名残り』はイギリス人執事と女中頭の恋愛を描いた小説ですが、恋愛というのはいわば「私」の部分。しかしその背景には「公」の時間が流れています。つまり時代背景があるということです。第二次世界大戦へと向かっていくヨーロッパの歴史や、戦後にかけて価値観が大きく変わっていくイギリス社会といった「公」の中にある「私」のドラマを描いているのです。そしてそこには、立派な「人間の尊厳」が表現されています。それに対し春樹の作品はどうでしょうか。戦後の何もない空虚な時間の中でなかなか恋愛は成就せず、不毛な愛が延々と続いていきます。主人公は喪失感や虚無感を抱え、何か漠然としたものを探しています。しかし、それは本当の私たちの姿なのだ。春樹作品は訴えるのです。つまり春樹の描く「私」は、「公」の中にある「私」ではなく、「等身大の私」なのです。我々人間は自らの意

志に関係なくこの世に送り出され、生き延びるための条件も自力では動かせず不自由を強いられ、この世界を生きるというものは様々な理不尽に遭遇し、人間の本性が分からなくなることも多いでしょう。春樹の作品は「人間とはこういうものなのだ」という等身大の人間の姿を教えてくれるのです。ここから、村上春樹がノーベル文学賞に選考されない理由が少しだけ垣間見ることができるようではないでしょうか。

## ●高校生に薦める春樹作品ベスト3

### ①「沈黙」(レキシントンの幽霊)所収 文春文庫1996

いじめを受けた側の傷は、その後の人生をどのように変えてしまうのか。いじめによって、人間の何が失われてしまうのか。この作品にはある。

### ②「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」(文藝春秋2013)

理由も告げられず、突然仲間外れにされる「いじめ」という体験が、人の心にとどめどどの傷を与えるのか。いじめの「した側」にあるのではなく、「された側」にあるのではない、描いたのがこの作品だ。

### ③「東京奇譚集」所収 新潮文庫2005

肉親を亡くした喪失感を埋められるものはない。理不尽な死を受け入れ、ただ時間過ぎるのを待つ以外にないのである。自然災害で親しい人を失った人へのメッセージがここにはある。

## あなたは電子派？紙派？



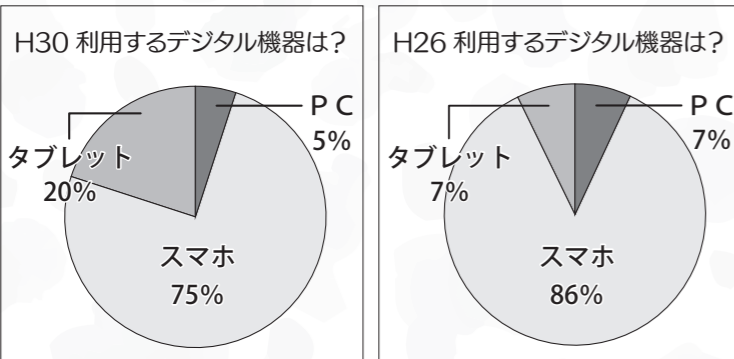
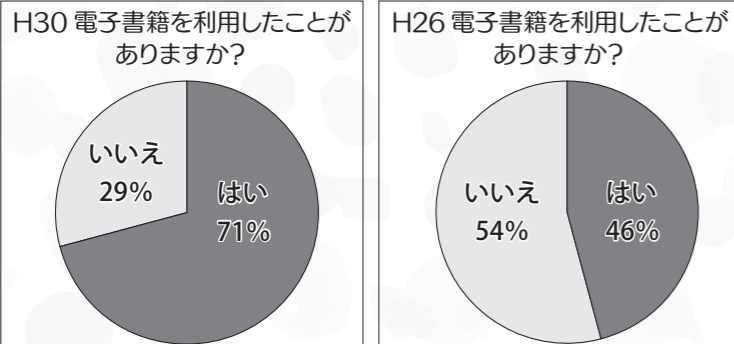
日本全国の国公立・私立の大学図書館で二〇一六年度に使用した資料費のうち、電子媒体の資料費が初めて紙媒体を上回ったことが、文部科学省の二〇一七年度学術情報基盤実態調査(旧大学図書館実態調査)で明らかになりました。(二〇一八年三月大学ジャーナルオンライン編集部より)つまり、電子媒体が紙媒体を超える事例が現れた、ということになります。近年、図書の世界においても「電子媒体」が急激にその需要を伸ばしています。が、「紙媒体」を超える日が来るのでしょうか。

## 城南生へのアンケート

【アンケート内容】  
①電子書籍を利用したことがあるか。  
②利用回数はどれくらいか。電子書籍を利用する際のデジタル機器は何か。  
③電子書籍と紙の書籍とどちらが好きか、その理由(自由記述)は。

## 平成三十年度アンケート結果

電子書籍と紙の書籍について、今年度は二年生を対象にアンケートを実施しました。



「あなたが利用が分散していることが分かりました。」  
質問③の電子書籍と紙の書籍のどちらが好きかという問いに対しては、「電子書籍」が15%、「紙の書籍」が54%、「どちらでもない」が31%という結果になり、平成二十六年年度とはほぼ同じ結果となりました。

## 平成三十年度アンケート (自由記述)

質問③電子書籍、紙の書籍のどちらが好きですか、その理由は。

### 〈紙の書籍〉

- ・本が蓄積すると満足感がある。
- ・巻数を揃える満足感がある。
- ・紙をめくると音が好き。
- ・背表紙がつながる仕組みが好き。
- ・データが消える心配がない。
- ・プラーライトの害がない。
- ・年代や出版社の特徴を感じる。
- ・形として手元に残したい。
- ・書店で本を探すと楽しさがある。
- 〈電子書籍〉
- ・文字の大きさを変えられる。
- ・日焼けしない。
- ・小さい読みながら電子書籍で十分。
- ・スマホならいつでも読める。
- ・一つの端末で複数読める。
- ・価格が安い。
- ・場所をとらない。

「電子書籍」と「紙の書籍」のそれぞれの媒体にメリット・デメリットがあること、人によって好み・好まざる理由が様々あることが分かり、両媒体に優劣をつけることはできないと思います。「電子」も「紙」も、今後それぞれの特性と需要の中で共存していくのではないのでしょうか。

## 文豪 イケメン ランキング



1位 萩原朔太郎  
群馬県生まれ  
1886〜1942  
医者である父を継がず、詩人になる。神経質で音楽を好む人物だった。

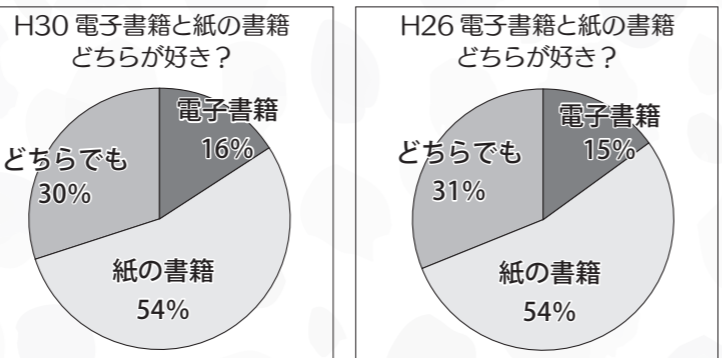


2位 芥川龍之介  
東京生まれ  
1892〜1927  
無試験で第一高等学校に入学するほど成績が良かった。東京帝国大学在学中に「鼻」という作品が夏目漱石に評価され、作家デビュー。その後数多くの有名な作品を書き、死後「芥川賞」が創設される。



3位 三宅 治  
青森県生まれ  
1909〜1948  
裕福な家に生まれるが、母が病弱で乳母に育てられた。芥川龍之介に憧れて作家を目指す。破天荒な生き方で東京大学を中退。女性問題も絶えなかったが、有名な作品を数多く残した。芥川賞を取れず、選考委員に手紙を送った話がある。

◎名言「阿呆はいつも彼(自分)以外のものを阿呆であると信じている」  
◎名言「学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまったら、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいけません。」



文部科学省の不読率(一ヶ月に一冊も本を読まなかった人の割合)に関する分析では、「スマートフォン」の普及等による子供の読書環境への影響の可能性が挙げられています。調査における読書の数に「電子書籍」はカウントされません。しかし、SNSを利用する人が、日に1.0人のつぶやきを二回読めば、三〜四日で一冊分くらいの文章量になる、という人もいます。読書の媒体としてスマートフォンを含む「電子書籍」が排除できない現在、何をもち「読書」とするかの定義はともかく、読書の入り口は多様であってもいいのかもしれない。